

今後の検討課題の整理

1 学校における理解促進について

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校によっては、本事業を被害に遭わないための防犯教育や妊娠・避妊などを扱う性教育と捉えている場合がある。本事業の目的や内容について、学校や関係機関（校長会、養護教諭、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等）の理解を深める必要がある。
対応案	<ul style="list-style-type: none"> ○事業周知のための動画の作成・配信 R4 年度に本事業の説明用動画を作成し、実施校や関係機関への周知啓発に取り組む。 【動画内容（案）】 本事業の趣旨、授業のねらい、配慮が必要な児童生徒がいる場合の対応、学校内での情報共有、授業前の児童生徒や保護者への授業の趣旨及び概要の説明、被害や加害についての相談先等 ○関係機関の各種会議での周知 校長会、教職員やスクールカウンセラーの研修会等の機会を捉え、本事業の内容や上記動画を周知してはどうか。

2 授業後の対応について

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・被害や加害の開示があった場合に、被害にあった児童生徒の心とからだのケアや二次被害の防止、問題行動を起こす児童生徒への対応等について検討する必要がある。
対応案	<ul style="list-style-type: none"> ○対応マニュアルの整備 資料 7「性暴力対策アドバイザー派遣制度（学校への派遣）実施要項」9、10 ページの「個別対応が必要な児童生徒への対応について」を基に、学校で性暴力が起こった場合の対応について、初期対応、学校での情報共有体制の整備、関係機関（相談先）一覧などをまとめたマニュアルを整備してはどうか。 ○児童生徒へのアンケート 学校において授業後のアンケートを行う場合には、児童生徒の安心や安全が守られるよう、アンケートの内容や取扱いで配慮すべきことを検討してはどうか。

3 教育内容、教材について

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・先行実施校での児童生徒のアンケートでは、概ね肯定的な評価がなされた一方で、「境界線がよくわからなかった」、「男性の被害の事例を出してほしかった」といった意見があった。 ・先行実施に係るアドバイザーや教員からは、「小学生から SNS 被害を取り上げるべき」、「被害事例としてデート DV や男性の被害もあればよい」といった意見があった。 ・特別支援学校や児童養護施設など、特別な配慮が必要な場合の教育内容や教材について、検討する必要がある。 								
対応案	<p>○アンケート結果やアドバイザーからの意見を踏まえ、各校種における教育内容について次のとおり追加や改訂を検討してはどうか。</p> <table border="1" data-bbox="432 806 1329 1099"> <thead> <tr> <th data-bbox="432 806 587 853">校種</th> <th data-bbox="595 806 1329 853">検討案</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="432 864 587 949">小学校 高学年</td> <td data-bbox="595 864 1329 949"> <ul style="list-style-type: none"> ・境界線に係るスライドやナレーションの改訂 ・SNS を利用した性暴力についての説明を追加 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 960 587 1046">中学校</td> <td data-bbox="595 960 1329 1046"> <ul style="list-style-type: none"> ・男性被害について事例の追加やナレーションの改訂 ・デート DV による性暴力事例の追加 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="432 1057 587 1099">高等学校</td> <td data-bbox="595 1057 1329 1099"> <ul style="list-style-type: none"> ・デート DV による性暴力事例の追加 </td> </tr> </tbody> </table> <p>○特別支援学校等における教育内容については、現在の各校種のテキストを基に、授業構成の標準例の作成、言葉だけでなく身振りを入れるといったわかりやすい教え方などについて検討してはどうか。</p>	校種	検討案	小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・境界線に係るスライドやナレーションの改訂 ・SNS を利用した性暴力についての説明を追加 	中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・男性被害について事例の追加やナレーションの改訂 ・デート DV による性暴力事例の追加 	高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・デート DV による性暴力事例の追加
校種	検討案								
小学校 高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・境界線に係るスライドやナレーションの改訂 ・SNS を利用した性暴力についての説明を追加 								
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・男性被害について事例の追加やナレーションの改訂 ・デート DV による性暴力事例の追加 								
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・デート DV による性暴力事例の追加 								

4 アドバイザーの養成・育成について

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザーは、養成講座を受講し、到達テストに合格した者のうち、希望する者に委嘱している。アドバイザーのスキルアップのための継続的な研修や、安心して活動するための支援体制を整える必要がある。
対応案	<p>○養成講座について、新人アドバイザー向け講座、スキルアップ講座など、体系的なカリキュラムを検討してはどうか。</p> <p>○アドバイザー同士のネットワーク強化に係る交流会の実施、スーパーバイザーの設置などを検討してはどうか。</p>

【参考】各福岡県性暴力対策アドバイザーから出たその他の主な意見

○「性暴力」という言葉について

- ・保護者が不安に思う、言葉の響きが強、怖く感じる等の意見が小学校や特別支援学校で出された。
- ・自殺予防の授業では「生涯にわたるメンタルヘルス」等として直截な言葉を入れていない。
- ・表現の工夫で子どもから親に話しやすくなるのではないか。

○中学生向けテキストについて

- ・ボリュームが多く抽象度が高い。
- ・小学校高学年での講義を受けていないので境界線から説明する必要があり時間が足りなくなっている。
- ・1年生と3年生で発達の違いが大きく、同じ教材で全学年をカバーすることは難しいと感じた。

○講義の実施内容について

- ・短縮授業となった場合の説明の優先順位が必要ではないか。
- ・特別支援学級の児童生徒に対しては、発達や知的の程度に合わせた標準テキストがいくつ必要ではないか。
- ・発達、知的の障がいがある児童に対しては字幕が欲しいと感じた。
- ・中高生向けの講義では男子への被害もはっきり提示すべきではないか。
- ・学年単位では教室移動による時間のロスや講義資料を映した画面が見づらい等の支障があったところもあり、学級単位での実施が望ましいと考える。
- ・リモートによる講義でも参加型になるようなワークシートを開発できないか。